

琉球大学イノベーションイニシアティブ

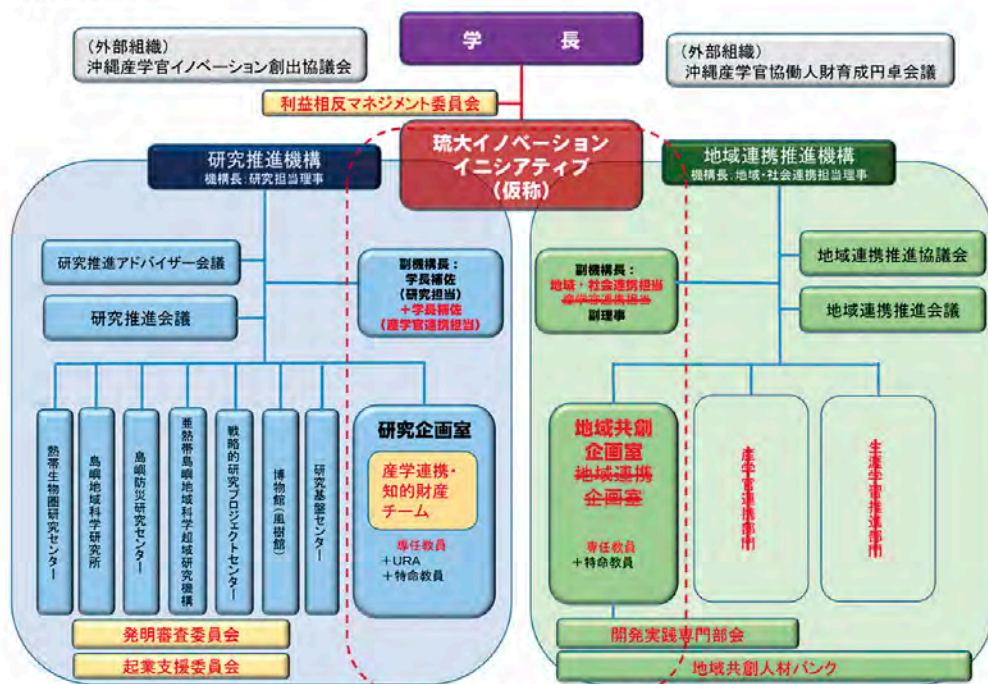


近年、我が国においては、限られたリソースを有効活用して競争力を維持・向上すべく学外の組織と戦略的に連携し、産学共同の研究や自由参加型のコンソーシアム等を形成し、アイデアを有機的に結合して価値を創造することの重要性（オープンイノベーション）の推進が求められています。中・長期的に見た場合、産業界及び自治体との連携を強化し、地域との教育研究両面における本格的な協働による社会のイノベーションを先導することこそが本学の目指す方向性に合致していることは間違いありません。このような背景から、令和2年4月から研究推進機構と地域連携推進機構の組織見直しと強化施策が行われています。

「産業界及び自治体との連携を強化し、地域との教育研究両面における本格的な協働による社会のイノベーションを先導する」ためには、地域共創と産学官連携を同時に推進していく必要があります。地域共創という面では、イノベーションの創出を担う「人材」の輩出とその仕組みの構築が重要であり、職業教育訓練、リカレント教育、グローバル人材教育、イノベーション教育、新しい生涯教育、そしてCOC・COC+を中軸とする社会と大学との接続教育等を推進していく必要があります。

また、産学官連携という面では、運営費交付金の算定基礎となるKPIに外部資金獲得の要素が盛り込まれるなど、外部資金獲得力強化は大学にとって喫緊の課題となっており、教員「個人」対「企業」による共同研究が中心だった従来の産学連携から転換し、「組織」対「組織」による共同研究を推進する必要があります。

このように、本学が地域社会のイノベーションを先導していくためには、地域連携推進機構及び研究推進機構の枠組みを超えた活動が求められていると言えます。そこで、地域共創及び産学官連携の両面において、研究推進機構及び地域連携推進機構が円滑に連携して業務を実施するために、「琉球大学イノベーションイニシアティブ：URI²」を学長の下に置き、その活動の円滑化のために以下のとおり体制の見直しを行いました。



新たな組織図 イノベーションを先導に向けた体制の見直しについて

ブ: URI²の設置

■ 琉球大学イノベーションイニシアティブの主な活動概要

琉球大学イノベーションイニシアティブ (URI²) の主たる目的は、沖縄の地域再生・地域おこし・地域活性化を実現するために、新しいアイデアや斬新なノウハウを出し合い、さらには共鳴・共感・感動を誘うインクルーシブな研究・開発に取り組むことによって、持続可能な沖縄社会の構築の一助になることを目的としています。なお、URI²は、下記3つのステージによって構成されます。

1 プレスト・ステージの活動

新しいアイデア・ノウハウや研究・開発のテーマをブレインストーミングにより出し合う、いわば玉出し会の段階です。プラットフォームとしてのURI²は、「改善・工夫・改良」「遊ぶ・学ぶ・交わる」「興味・関心・好奇心」等をキーワードとする自由闊達にして共鳴・共感・感動を誘うようなアイデアやテーマを、ブレインストーミング方式で出し合い、具体的なイノベーションの卵を産み出す最初の一步として位置づけています。考えられる具体的なテーマやアイデア等は、以下のとおりです。

■首里城再興学術ネットワーク ■0メートル地帯の商業施設に対する防災・減災ネットワーク ■SDGsの効果的実現に向けたネットワーク ■沖縄振興審議会の個別テーマごとのプロジェクト ■地域公共政策士ネットワーク ■STEAMEC教育の推進によるJST3事業の内省化プロジェクト ■効果的なFD・SDの教育内容・教育方法開発ネットワーク ■離島におけるICT教育による附属高校設置ネットワーク ■数理データサイエンスの社会人教育推進プロジェクト ■単位の実質化施策: eポートフォリオの活用・浸透プロジェクト

3 ソリューション・ステージの活動

アウトカム (成果) としての共同研究成果や具体的なソリューション (解決策) を整理・体系化し、公表化する段階です。沖縄地域社会の持続可能な発展に資するアウトカムを束ね、具体的なソリューションを公表・還元することが、最終的な課題となります。現代的課題や沖縄固有の課題を、大学と民間企業、地方自治体、非営利活動法人等の法人組織が連携・協力することにより産み出された研究成果を、未来共創フォーラムや未来共創フェアの開催により、還元・浸透させていくことも、ソリューション・ステージの重要な役割となります。

2 プロジェクト・ステージの活動

抽出されたアイデア・ノウハウ・研究開発テーマを、期待されるアウトカムと実現可能性の視点から評価・精査し、共同プロジェクトへと展開し、具体的な戦略を策定しつつ活動していく段階です。なお、この段階で、テーマやプロジェクトごとに担当者のグルーピング (部会化) を行い、地域共創人材バンクに登録します。バンクに登録している学内外の人材が、「プロジェクト・ステージ」を舞台に、ブレインストーミングやテーマ・プロジェクトによって抽出されたテーマを、共同研究という形で細解き、アウトカムを産み出すための取り組みを計画的段階的に実践していきます。また、地域の求める人材輩出のための仕組みづくりに参画し、教育プログラムの開発を行います。



最後に、今後の展望については、「沖縄がハッピーになる」ことに繋がる自由で主体的な環境 (研究と学びの場) のカタチ作りであると考えています。自身のやりたい研究や教育が好きになって、夢中になれる面白さがたくさんあって、一緒に楽しむ仲間もたくさんいて、それを周囲が快く応援・支援してくれて、結果として自身の研究や教育が沖縄の社会課題の解決に繋がって、研究と教育の成果があがり、外部資金の導入にも繋がっていく。このような「沖縄がハッピーになる」ことに繋がる自由で主体的な環境づくりが求められていると考えています。

